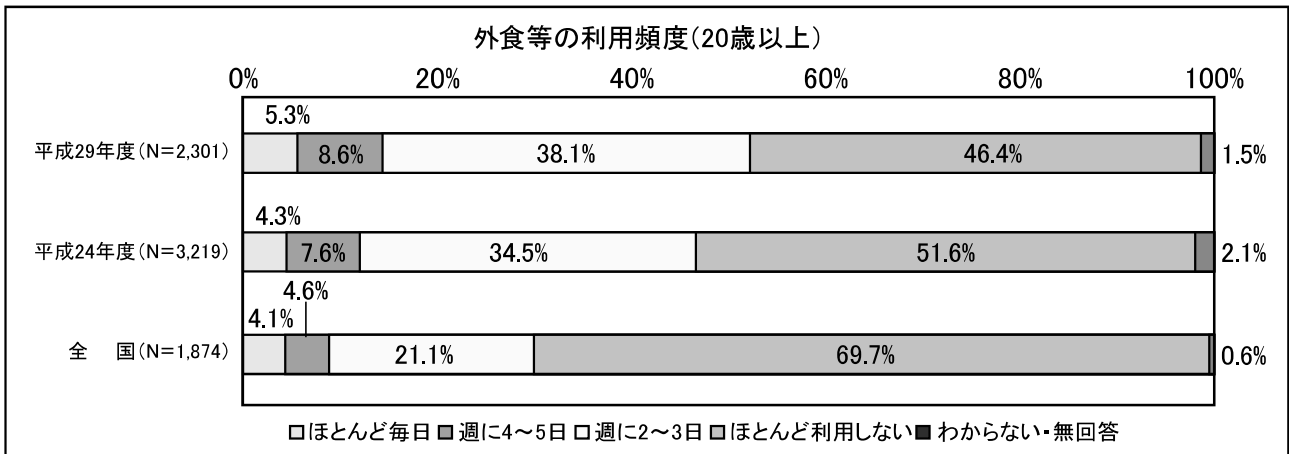


5 外食や食品購入

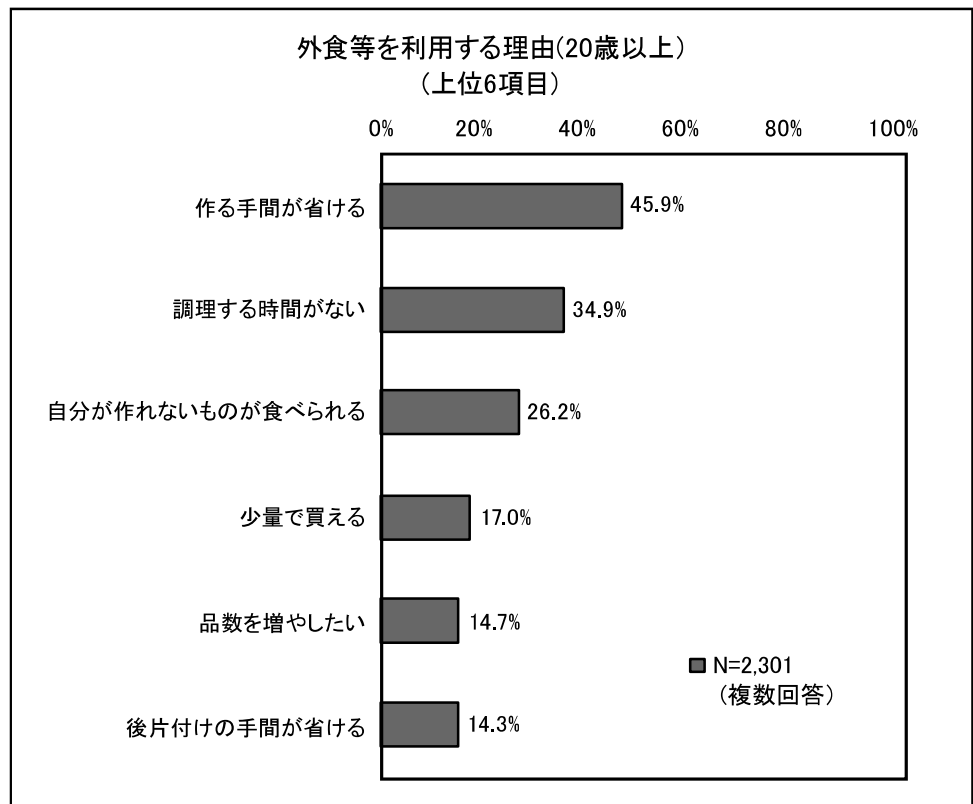
(1) 外食や市販の弁当、惣菜の利用頻度

外食等の利用頻度は増加、利用理由は「作る手間が省ける」から

外食や市販の弁当、惣菜をよく利用する割合（「ほとんど毎日」＋「週に4～5日」）は、13.9%と前回調査結果の11.9%よりやや増加しています。全国の調査結果8.7%より高くなっています。外食・中食などを利用する理由としては、「作る手間が省ける」が45.9%で最も多く、次いで「調理する時間がない」が34.9%となっています。



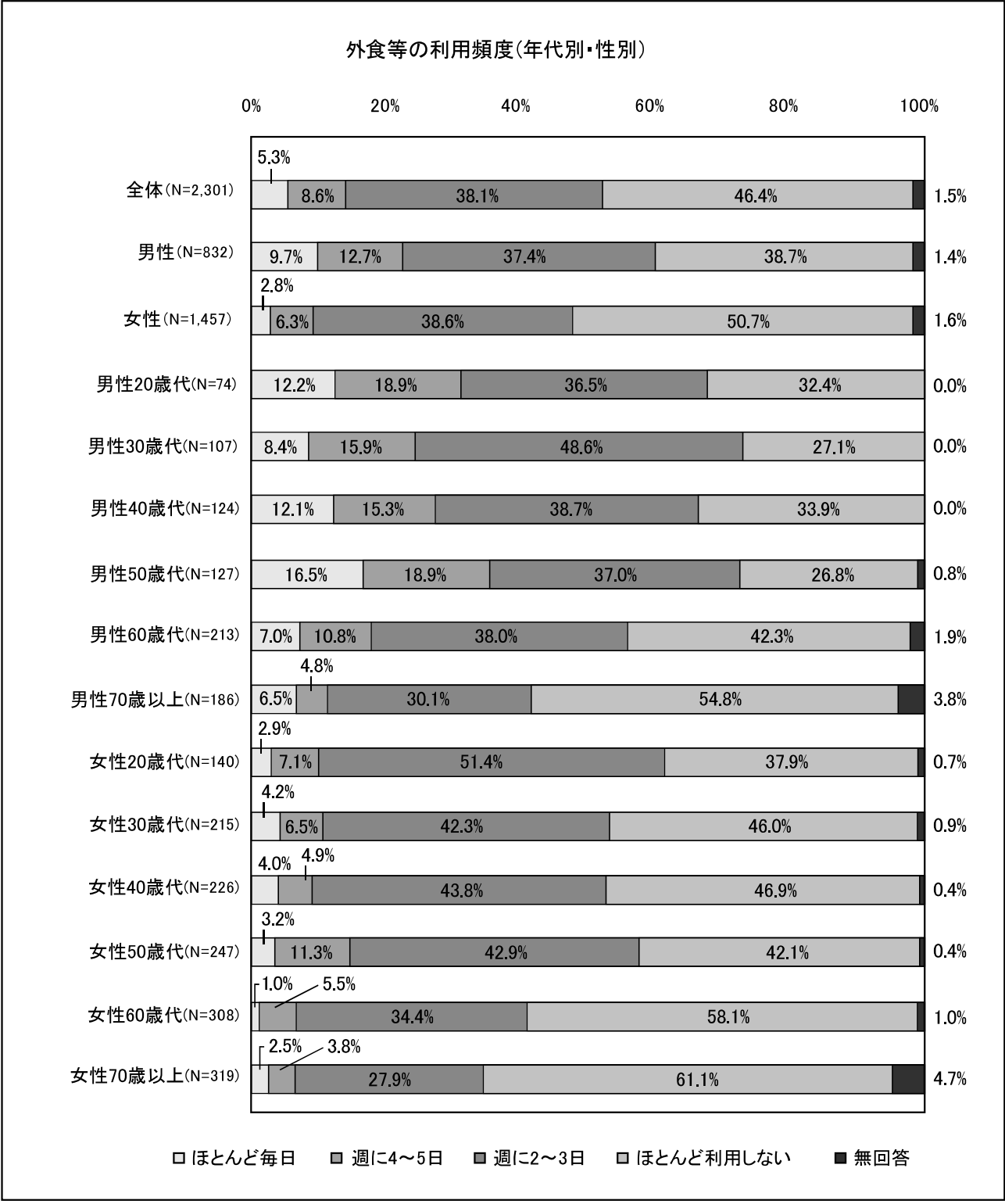
出典：平成29年度北九州市食育に関する実態調査、平成24年度北九州市食育に関する実態調査
平成28年度食育に関する意識調査（農林水産省）



出典：平成29年度北九州市食育に関する実態調査

働く世代で多い外食等の利用頻度

外食等の利用頻度は、性別では女性より男性が多く、男女ともに 20 ～ 50 歳代の利用頻度は、60 歳以上より多くなっています。



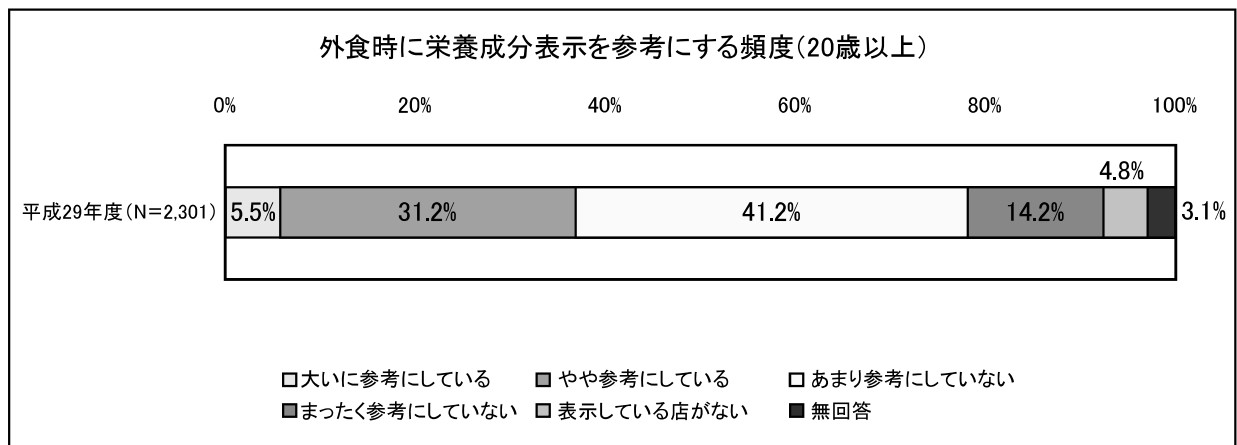
出典：平成 29 年度北九州市食育に関する実態調査

(2) 栄養成分表示を参考にする頻度

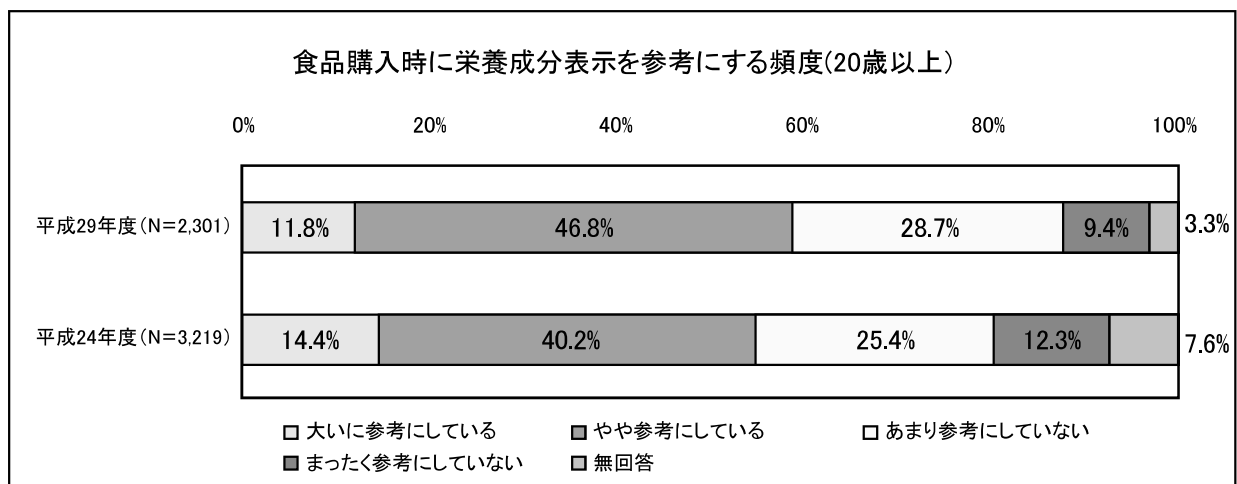
外食等での栄養成分表示を利用する人は増えている

外食時の栄養成分表示を参考にする頻度は、「大いに参考にしてている」が5.5%、「やや参考にしてている」が31.2%と、これらを合わせた「参考にしてている」は36.7%でした。

食品購入時の栄養成分表示を参考にする頻度は、「大いに参考にしてている」が11.8%、「やや参考にしてている」が46.8%と、これらを合わせた「参考にしてている」は58.6%となっており、前回調査結果の54.6%から増加しています。一方で「まったく参考にしていない」は12.3%から9.4%と減少しています。



出典：平成29年度北九州市食育に関する実態調査



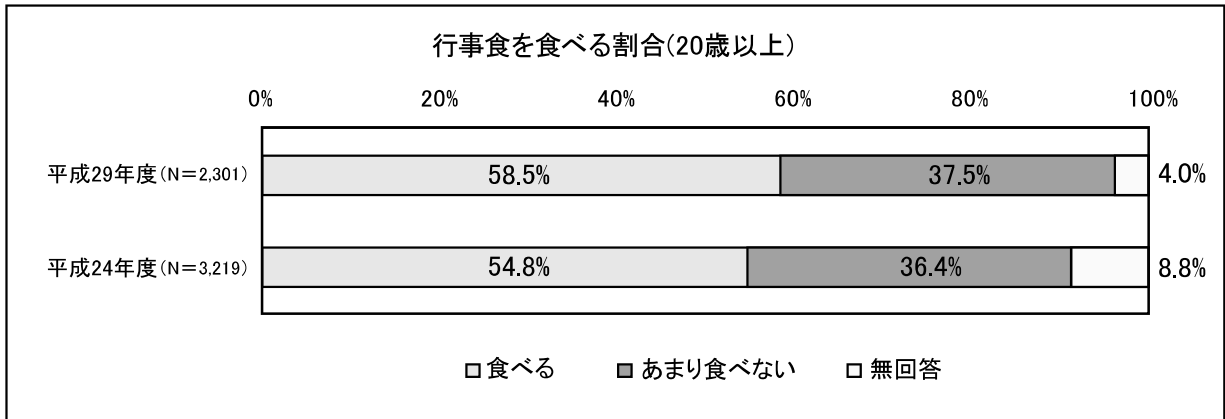
出典：平成29年度北九州市食育に関する実態調査、平成24年度北九州市食育に関する実態調査

6 食文化について

(1) 行事食を食べる習慣

行事食を食べる人はやや増加

季節や地域の行事のときに「行事食を食べる」は58.5%と、前回調査結果の54.8%よりやや増加しています。

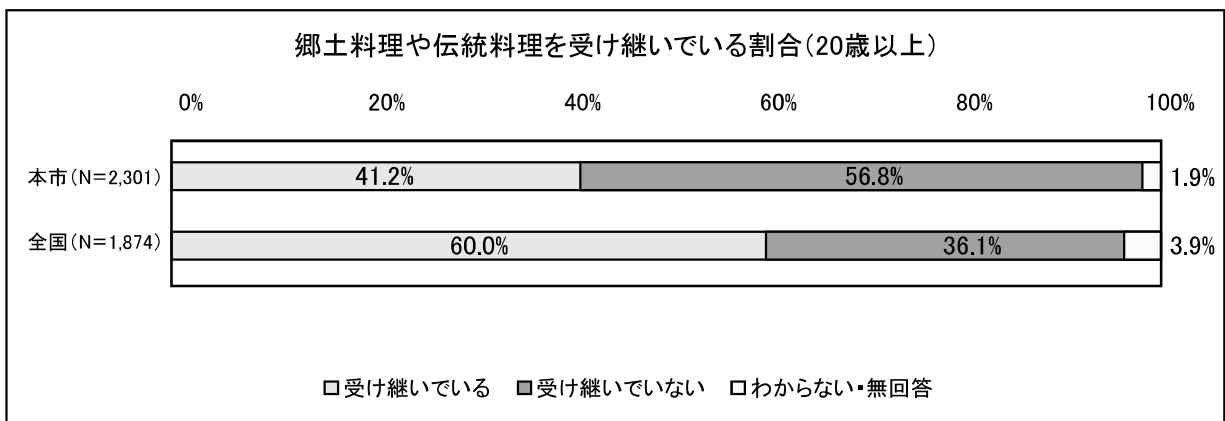


出典：平成29年度北九州市食育に関する実態調査、平成24年度北九州市食育に関する実態調査

(2) 郷土料理や伝統料理の伝承

郷土料理や伝統料理を受け継いでいる人は全国より少ない

郷土料理や伝統料理を「受け継いでいる」は41.2%と、全国の調査結果60.0%より低くなっています。



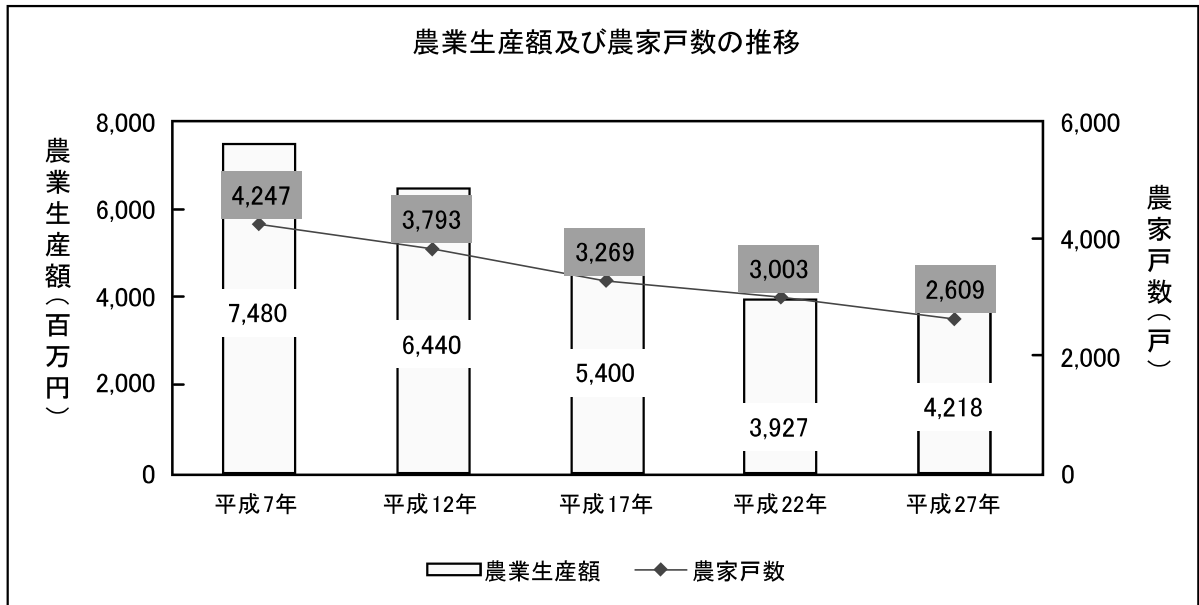
出典：平成29年度北九州市食育に関する実態調査、平成28年度食育に関する意識調査(農林水産省)

7 地産地消について

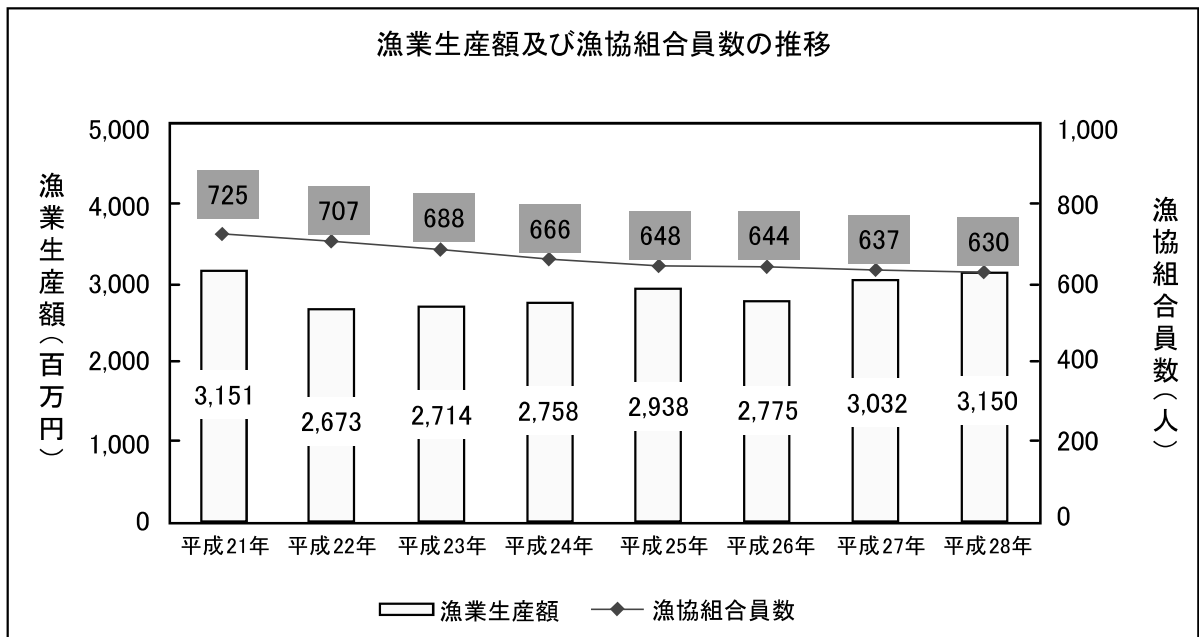
(1) 農林水産業の現状

高齢化や後継者不足、更には、農林水産物価格の低迷など、農林水産業を取り巻く環境は厳しい状況です。

本市では、農家戸数、漁協組合員数とも減少傾向にあります。農業、漁業の生産額については、緩やかな増加傾向にあります。



出典：北九州市産業経済局調べ

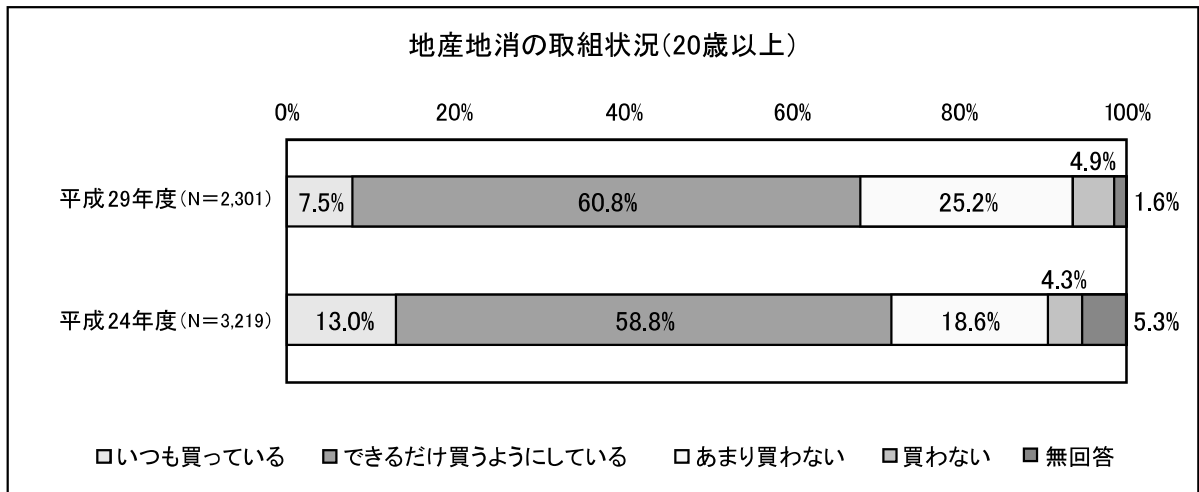


出典：北九州市産業経済局調べ

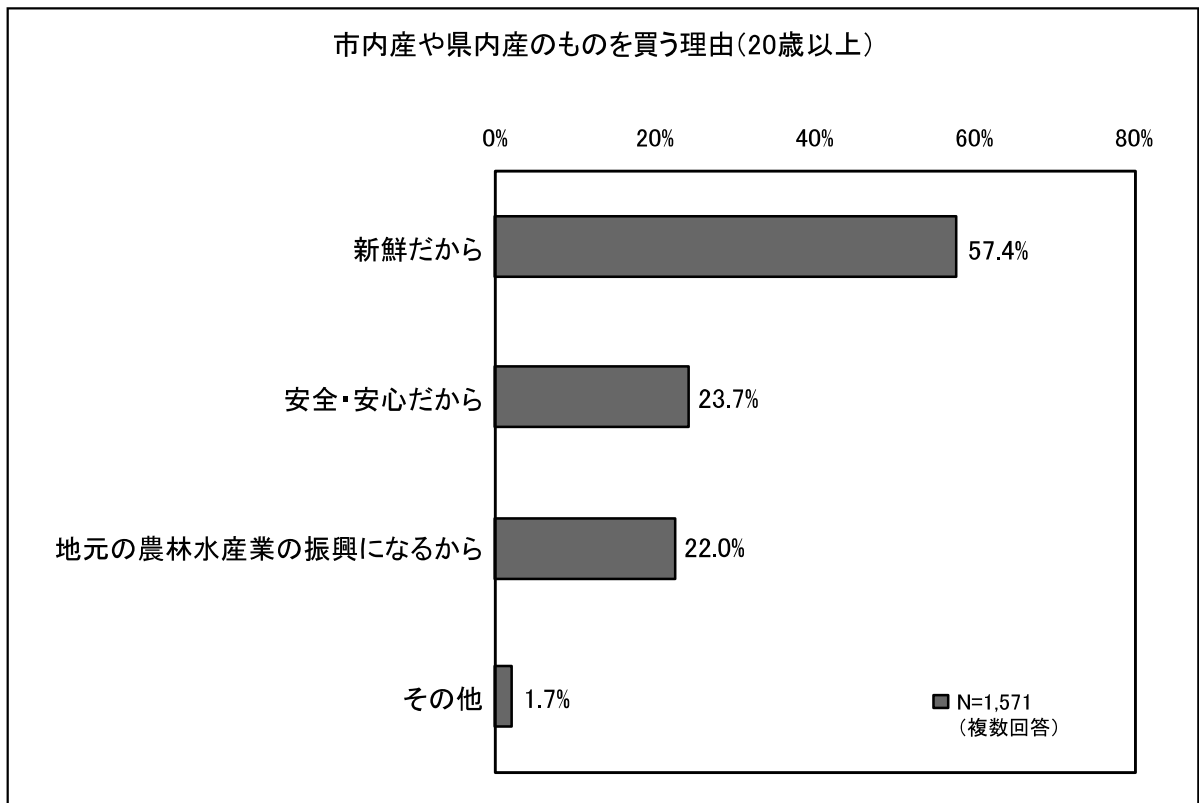
(2) 地産消の取り組み状況

「地産地消を意識して食品を購入している」（「市内又は県内産の食品をいつも買っている」＋「できるだけ買うようにしている」）は68.3%と、前回調査結果の71.8%より減少しており、前計画の目標値86%以上に到達していません。

市内産や県内産を買う理由としては、「新鮮」57.4%、次いで「安全・安心」23.7%、「地元の農林水産業の振興になる」22.0%の順になっています。



出典：平成29年度北九州市食育に関する実態調査、平成24年度北九州市食育に関する実態調査

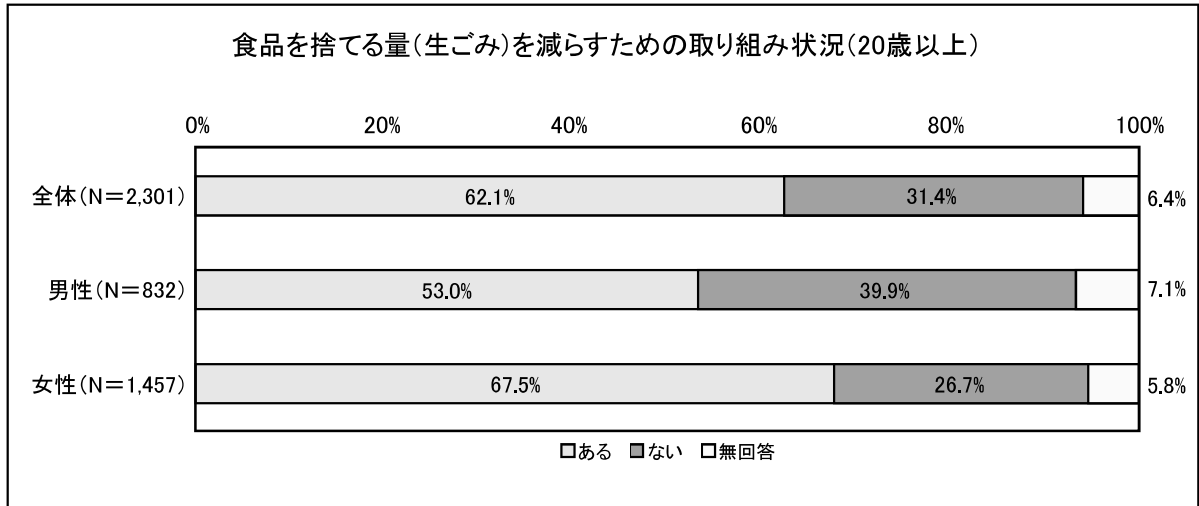


出典：平成29年度北九州市食育に関する実態調査

8 環境に配慮した食生活

半数以上の市民が生ごみ減量化の取り組み

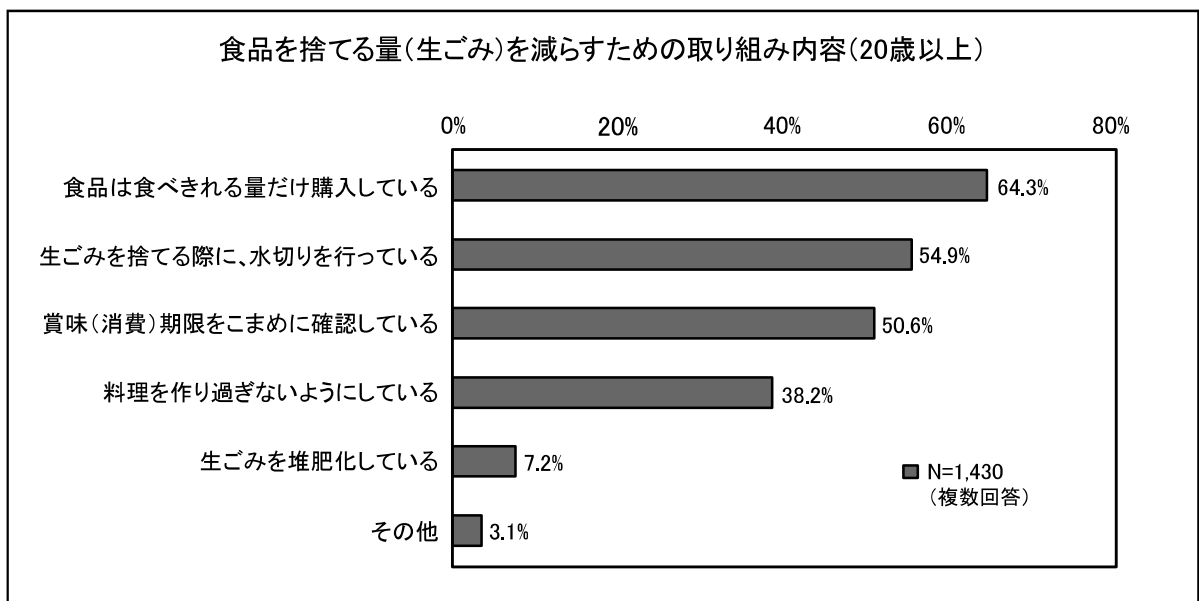
食品を捨てる量(生ごみ)を減らす取り組みでは、62.1%と半数以上が「食品を捨てる量(生ごみ)を減らすために行っていることがある」と回答しています。



出典：平成 29 年度北九州市食育に関する実態調査

食品廃棄を減らす取り組みでは、「食べきれるだけ購入」が最も多い

食品廃棄を減らすための取り組みでは、「食品は食べきれる量だけ購入している」が 64.3%で最も多くなっています。続いて「生ごみを捨てる際に、水切りを行っている」が 54.9%となっています。



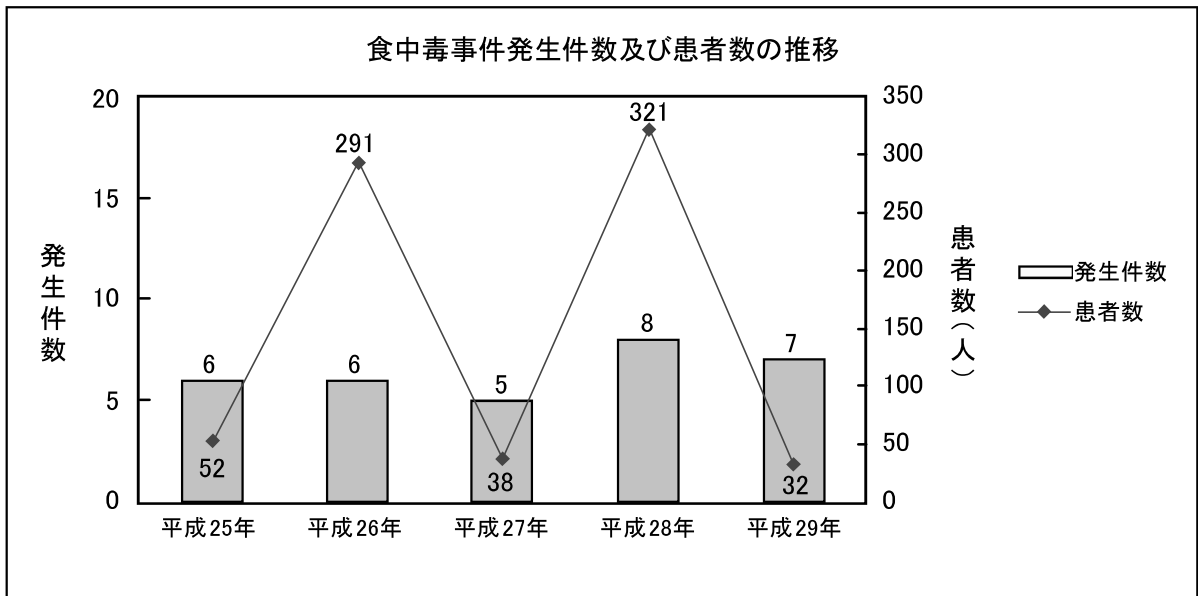
出典：平成 29 年度北九州市食育に関する実態調査

9 食の安全・安心

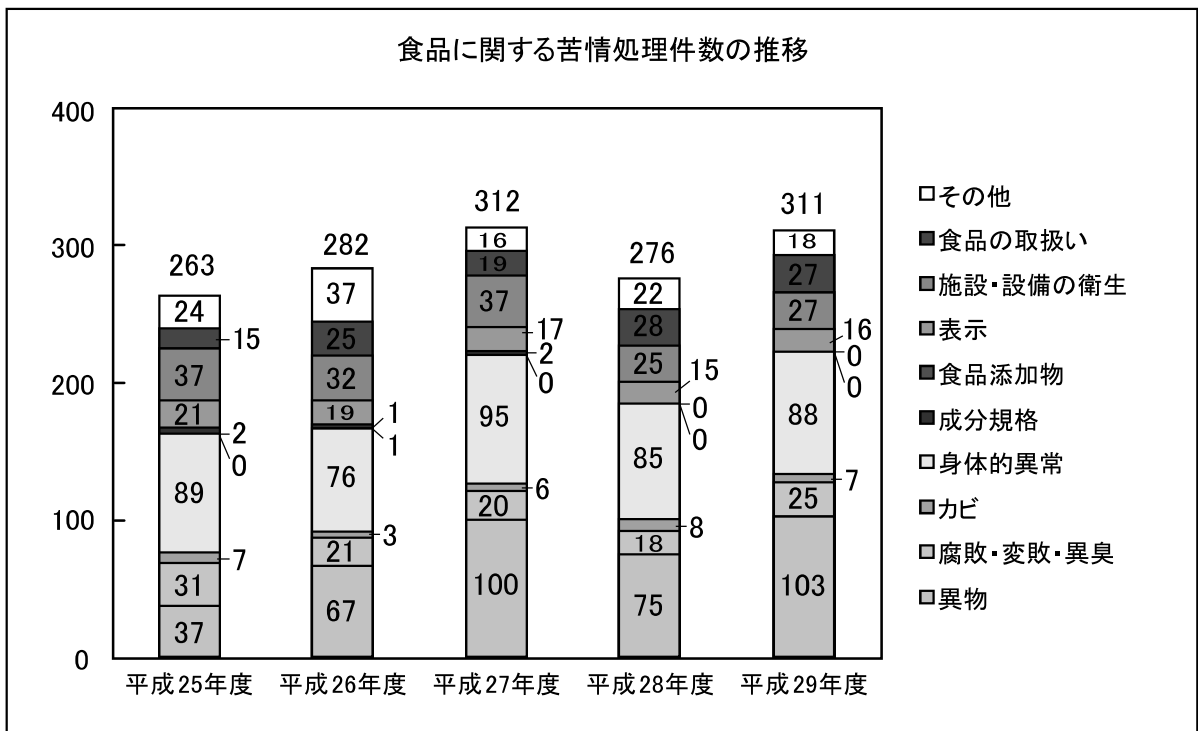
(1) 市内の食中毒の発生状況と食品に関する苦情

北九州市では、毎年10件弱の食中毒が発生しています。特に近年では、ノロウイルス、カンピロバクター、アニサキス等を原因とする食中毒が発生しています。

また、市内の食品に関する苦情処理件数は、年々増加傾向にあります。苦情内容では、「異物」、「身体的異常」が多い傾向にあります。



出典：北九州市保健福祉局調べ

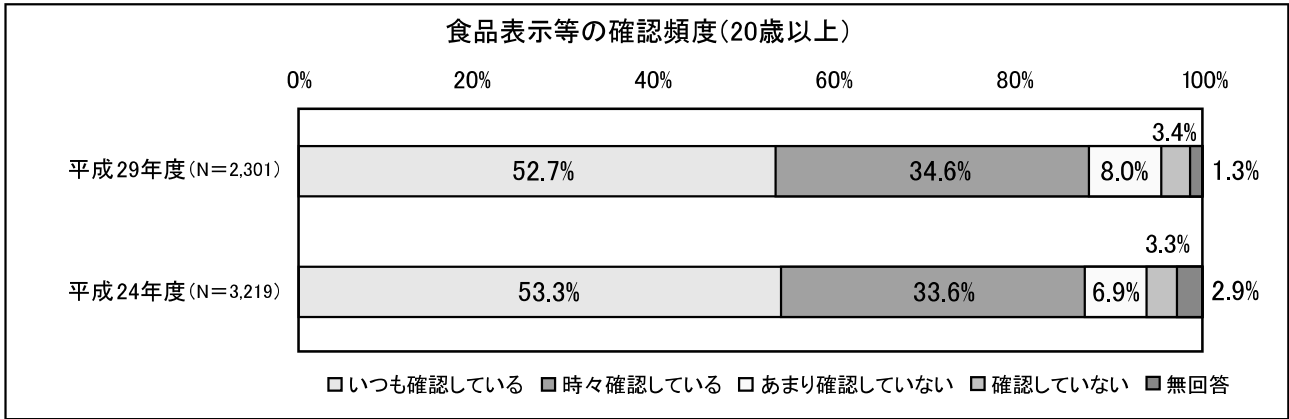


出典：北九州市保健福祉局調べ

(2) 食品表示等の確認

食品表示の確認をしている人は約9割

食品を選ぶ際に、産地や賞味期限、原材料、添加物などの食品表示等の「確認をしている」（「いつもしている」+「時々している」）は87.3%で、前回調査結果の86.9%より増加しており、依然として食品表示への関心が高いことが伺えます。

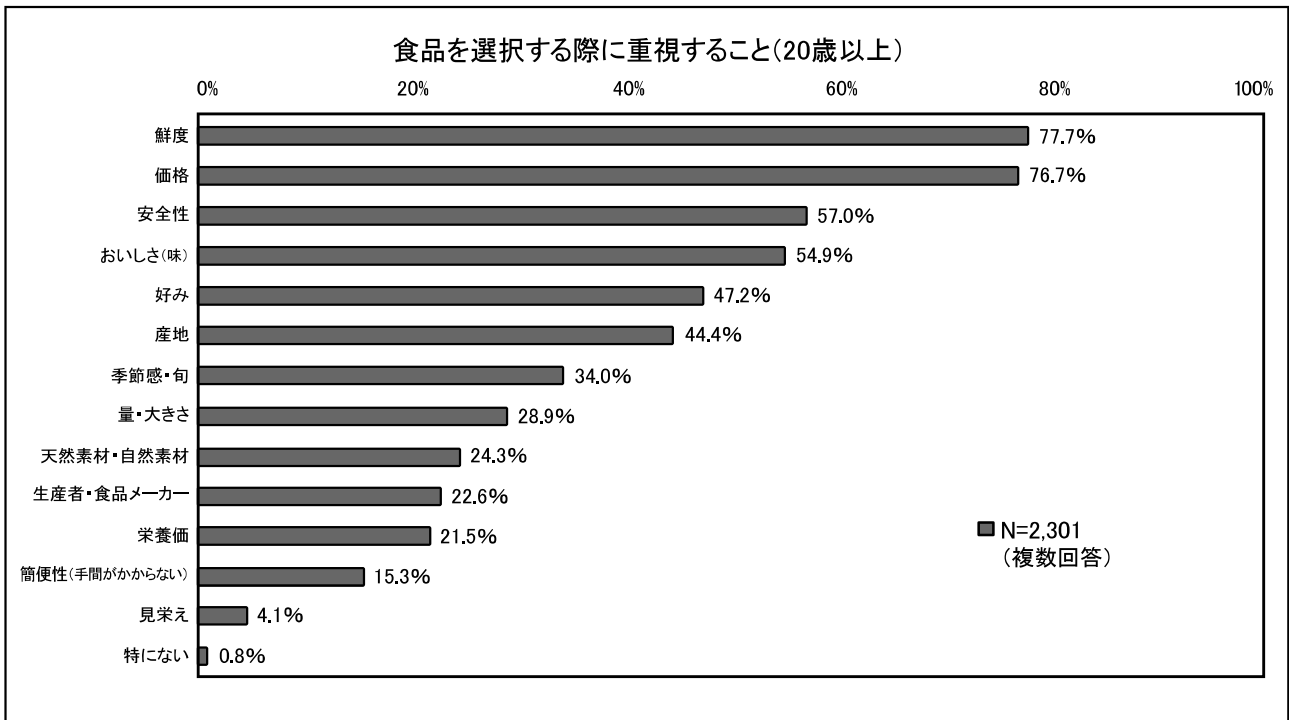


出典：平成29年度北九州市食育に関する実態調査、平成24年度北九州市食育に関する実態調査

(3) 食品を選択する際に重視すること

食品を選択する際に重視することは、鮮度、価格、安全性

食品を選択する際に重視すること(複数回答)は、「鮮度」が77.7%と最も多く、続いて「価格」、「安全性」、「おいしさ(味)」の順になっています。

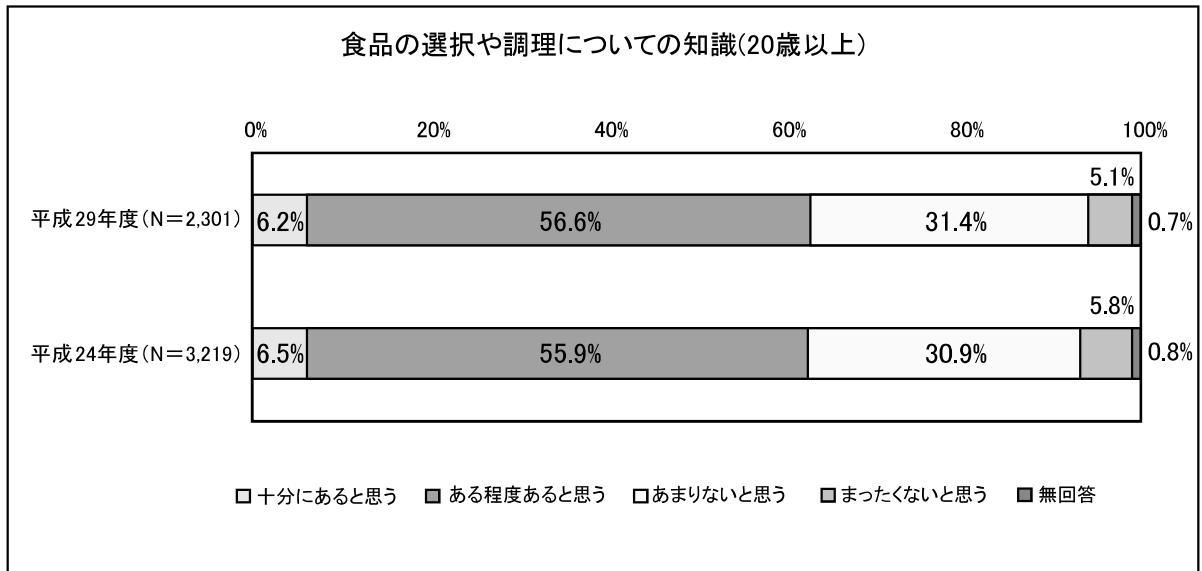


出典：平成29年度北九州市食育に関する実態調査

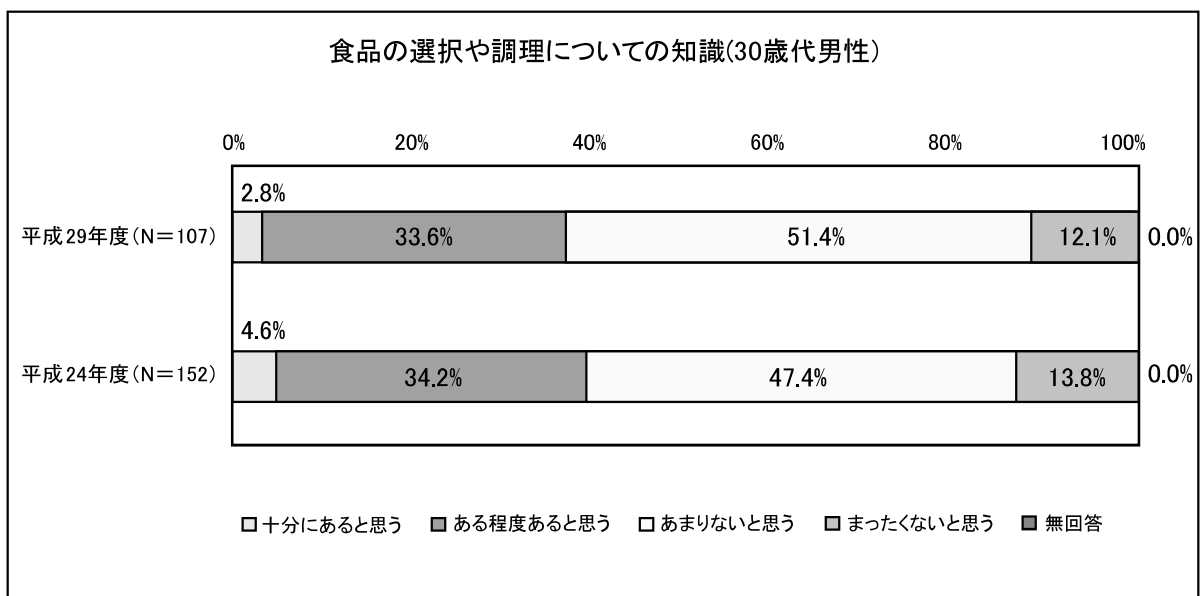
(4) 食に関する知識

食品の選び方や調理についての知識がある人は微増

健康に悪影響を与えないようにするために食品の選び方や調理についての知識がある（「十分にあると思う」＋「ある程度あると思う」）は62.8%で、前回調査結果の62.4%より増加していますが、前計画の目標値88%以上には到達していません。特に、30歳代男性は、36.4%と低くなっています。



出典：平成29年度北九州市食育に関する実態調査、平成24年度北九州市食育に関する実態調査

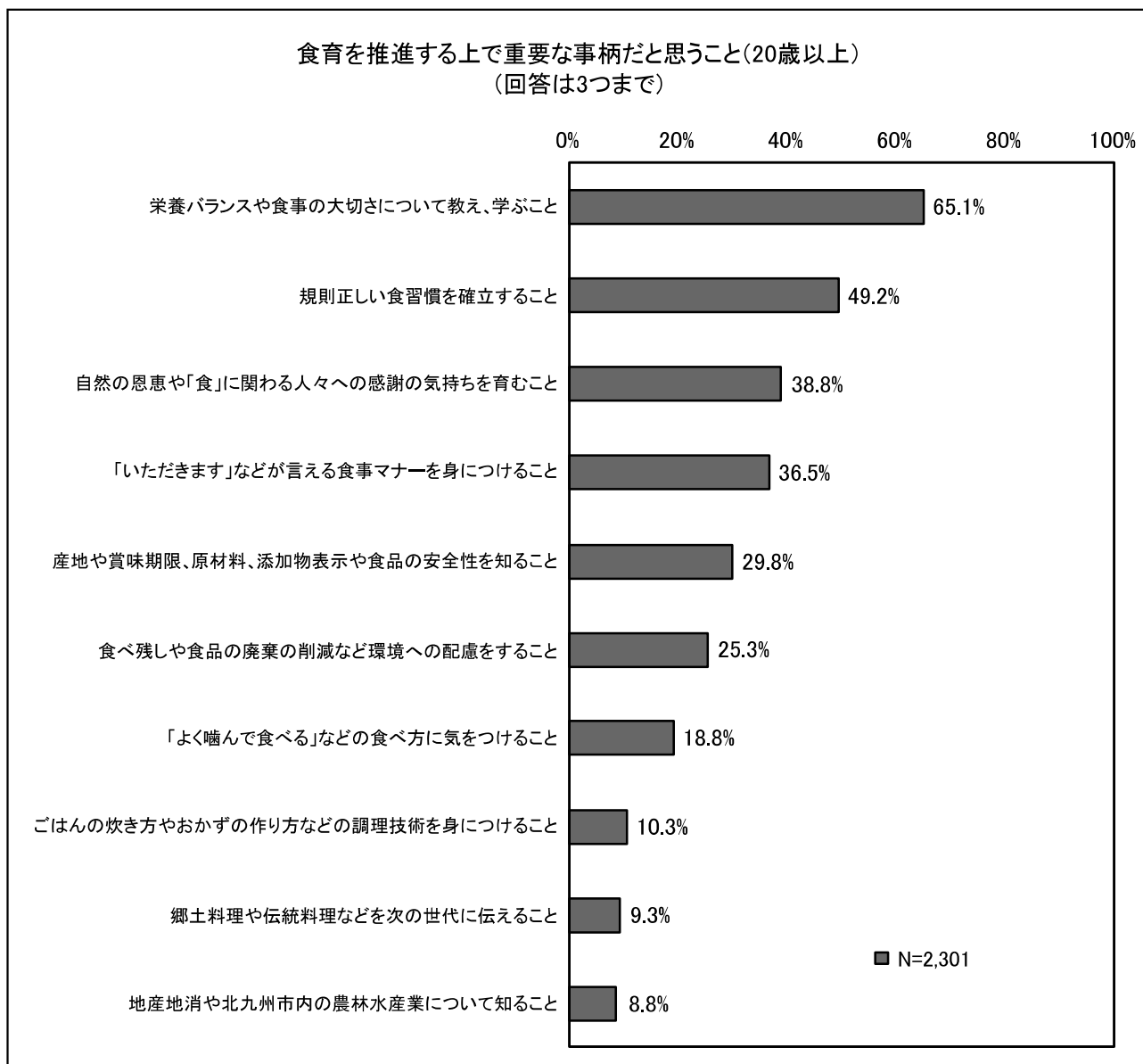


出典：平成29年度北九州市食育に関する実態調査、平成24年度北九州市食育に関する実態調査

10 食への感謝

私たちの食生活は自然の恩恵の上に成り立っており、また食に関わる人々の様々な活動に支えられています。環境への配慮とともに、食への感謝の気持ちを育む「食育」が大切です。

「食育を推進する上で重要な事柄だと思うこと」として 38.8% が「食への感謝の気持ちを育むこと」と回答しています。



出典：平成 29 年度北九州市食育に関する実態調査

11 第二次北九州市食育推進計画の評価

本市では、これまで第二次食育推進計画に基づき、様々な食育の推進に関する取り組みを進めてきましたが、平成 29 年度に実施した「食育に関する実態調査」の結果からは、下記のような課題が明らかになりました。第三次計画は、これらの課題を踏まえた上で策定をする必要があります。

(1) 若い世代からの健全な食生活の実践

食育への関心度はやや増加しましたが、朝食摂取や、栄養バランスのとれた食事などは、目標値に達していませんでした。特に若い世代で食習慣の乱れ等、課題が多く見られました。

この理由としては、規則正しい食習慣が定着していないことや、個人に応じた健全な食生活の実践ができていないことなどが考えられます。

<次期計画の考え方>

- ①市民が、自ら取り組むべきことが何かを明確にする。
- ②健康寿命の延伸に向けて、各ライフステージで取り組むべきことを明確にする。

(2) 健全な食生活の実践を支援するための食環境の整備

健全な食生活を送るために活用できる、栄養成分表示や食品表示を確認している人は増えていました。一方で、日頃の食生活で悩みや不安を感じている人は増えていました。

この理由としては、食に関する情報に関心はあるものの、健全な食生活の実践に活用されていないことや、正しい知識が不足していることなどが考えられます。

<次期計画の考え方>

- ①市民の実践を支援するために、食を取り巻く環境を整備する。
- ②健全な食生活の実践につながる、正しい知識の普及に取り組む。

(3) 良質な食の確保と環境に配慮した食生活の実践

市内産・県内産を購入している人の割合や、食品を捨てる量（生ごみ）を減らすよう取り組んでいる人の割合は、目標値に達していませんでした。

この理由としては、食品購入や食品利用についての意識や知識が不足していることなどが考えられます。

<次期計画の考え方>

- ①地産地消など、効果的な情報発信に取り組む。
- ②環境に配慮し、安全・安心な食生活を送るための正しい知識の普及・啓発に取り組む。

12 北九州市の食育にかかわる課題

	妊娠(出生)期	乳 幼 児 期	児 童 ・ 思 春 期	
1 食育の推進による健康で生き生きとした食生活の実践			朝食摂取(幼児・小、中学生)は100%に至らず	
				食事を抜く女子高校生 増加傾向
				食事はうす味に気をつけている乳幼児の保護者は約7割
				食事はうす味に気をつけている小学生の保護者は約6割
				歯ごたえのあるものを食べている小学生は減少
2 食にまつわる社会環境の整備			子どもの食事について学ぶ機会があった乳幼児保護者は約6割	
3 生産から消費までの食の循環 と食の安全・安心				
				食品購入時に表示を見る小学生の保護者は約6割

